

特集

患者総合支援センター
「おあしす」を開設しました

各科だより	4・5P
糖尿病食事療法・薬物療法最近の進歩	内分泌科
前立腺がんについて	泌尿器科
南棟がオープンしました！	6・7P
患者さんのためのオアシスコンサート	8P
院長伝言板	
地域医療連携室だより	

市立砺波総合病院憲章

わたくしたちは 市立砺波総合病院の職員であることを誇りとし 愛と奉仕の精神のもとに 病気で悩める人々を癒すことに互いの心を結集し この憲章を定めます

市立砺波総合病院は

- 1 患者さんの権利を尊重します
- 1 信頼できる医療を提供します
- 1 医療の安全を追求します
- 1 優しい医療を行います
- 1 職員が働く喜びと誇りの持てる職場をめざします

理 念

地域に開かれ
地域住民に親しまれ
信頼される病院



市立砺波総合病院
Tonami General Hospital

〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号
TEL 0763-32-3320(代表) FAX 0763-33-1487(総務課)
E-mail tgh-somu@city.tonami.lg.jp
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh>

特集

患者総合支援センター

「おあしす」を開設しました

平成26年10月1日、患者総合支援センター「おあしす」を病院正面に開設しました。

患者総合支援センター

「おあしす」では

かかりつけ医との連携、入退院支援や各種の相談業務などを行い、地域医療機関等との連携を強化するとともに、地域住民の皆様がより適切な医療を受けられるように支援します。

また、患者さんやご家族の立場に立って、入院から退院そして地域に戻られてからも、安全で安心な切れ目のない療養となるよう支援します。また、市立砺波総合病院の中に地域包括支援センターが併設されます。市役所へ行かなくても介護や予防、要介護認定などの相談ができます。



●患者総合支援センター「おあしす」には5つの機能があります。

地域医療連携室

- ・前方連携
- ・後方連携
- ・院内の連絡・調整

地域医療機関（開業医等）、地域担当者（ケアマネジャー等）が連携を強化し、患者さんやご家族を支援します。

「かかりつけ医」をもっていらっしゃいますか？

「風邪かな？」「何か調子が悪いなー。」そのようなときには日常気軽に診てもらったり、相談したりできるお医者さん（かかりつけ医）で診察を受けましょう。さらに詳しい検査や治療が

必要と判断されたら本院をはじめとした総合病院（大きな病院）を紹介されます。「前方連携」このような「かかりつけ医」を持つお手伝い「後方連携」もさせていただきます。



2 入退院支援室

- ・入院に関する手続き
- ・入院時の書類整理
- ・退院支援
- ・退院時手続き
- ・持参薬管理



入院時・退院時には、患者さんやご家族には不安がたくさんあります。安心して入院生活が送れるよう、また安心して退院できるよう支援していきます。

入退院の際に必要な手続きは、入退院支援室の担当者がお手伝いします。入院時の書類や持ち物などの説明や服用中のお薬の確認もします。また、お部屋のご希望なども聞き、入院生活の環境を整えます。入院時には、書類やお薬の服薬状況の確認を行い病棟まで案内します。診断書などの書類の対応もします。

3 総合相談室

- ・総合相談
- ・医療・福祉相談
- ・看護外来
- ・がん相談・肝疾患相談
- ・セカンドオピニオン



患者さんやご家族の不安・疑問などの相談を受けます。身体の状態のこと、退院後の生活のこと、お薬のこと、栄養のこと、どんなことでもお気軽にご相談ください。関係部署の担当者に対応します。

4 病床管理室

- ・病床決定
- ・病床管理

入院病床を決めます。また病床稼働率や平均在院日数などを把握し、効率のよい病床管理を行います。

患者さんの情報を一括管理し、スムーズな入退院支援や調整なども行います。

5 総合病院地域包括支援センター

- ・介護サービス事業所などとの連絡調整

要介護・要支援認定申請の相談や申請書の受付を行います。その他高齢者の様々な在宅や日常生活の支援制度について総合的な相談支援を行います。



住み慣れた場所で安心して療養生活を送ることができるよう、支援させていただきますので、どんなことでもお気軽にご相談ください。

各科だより

糖尿病食事療法・薬物療法最近の進歩

内分泌内科 早川 哲雄

はじめに

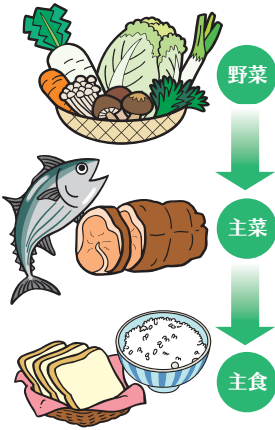
最近食品の選び方や食事をとる順番によって食後の高血糖を抑えることが可能であることがわかってきました。また、今までの糖尿病薬と作用機序の異なる薬が発売されましたので食事療法・薬物療法についてお話しします。

食事療法

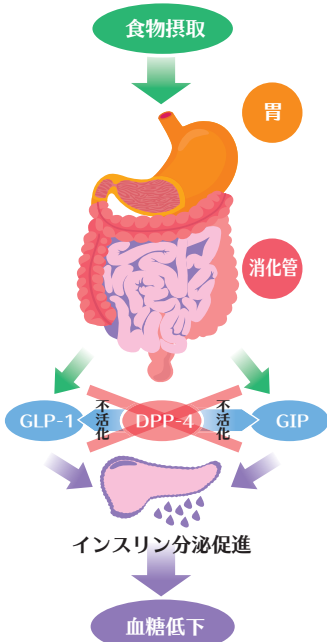
主食ですがご飯と麺類は糖質を多く含む食品なので同時にとると食後血糖が高くなります。ご飯と麺類は別々にとりましょう。

次に主菜ですが、新鮮な魚、脂肪分の少ない肉・大豆製品などを取りましょう。これらはコレステロールや飽和脂肪酸の摂取を抑え心筋梗塞や脳梗塞の発症を防ぎます。最近、肉や脂肪をとると後述べる腸管から分泌されるインクレチンというホルモンのうち太りやすくなるGIPが分泌されることがわかってきました。できるだけ肉より魚、特に青みの魚をとるようにしましょう。

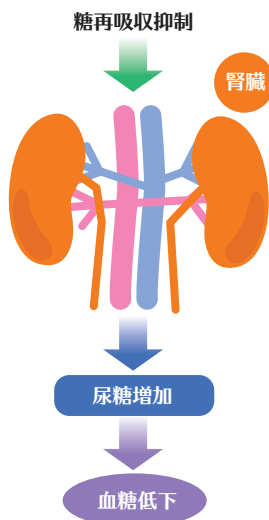
食後血糖上昇を抑制する
食事をとる順番



DPP-4 阻害剤



SGLT2 阻害剤



さらに食事をとる順番も大切で野菜・主菜・主食の順にとるとよいことがわかってきました。野菜には食物繊維がたくさん含まれており、食物繊維は便秘の予防だけではなく食後血糖上昇やコレステロールを低下させる働きがあります。また、主菜を先にとってから主食をとると、主食をとってから主菜をとるのでは主菜を先にとったほうがインクレチンのうちGLP-1が増加して食後血糖の上昇が抑制されることがわかってきました。日本食は魚を多くとり脂肪の摂取量が少なく食物繊維の摂取量が多いので糖尿病の食事療法には理想的です。懐石料理の食事の順番も血糖を上昇しにくくすると考えられています。

最近、インクレチン関連薬とSGLT2阻害薬という今までの糖尿病薬と作用機序の異なる薬が発売され糖尿病の治療が大きく変わりました。インクレチンとは食事をとると腸管から分泌されるGLP-1やGIPというホルモンでGLP-1・GIPは膵臓に作用して血糖を低下させるホルモンであるインスリンの分泌を促進します。GLP-1はさらに血糖を上昇させるホルモンであるグルカゴンの分泌をおさえることにより血糖を低下させます。しかしインクレチンはDPP-4という酵素によってすぐに分解されてしまいます。そのためインクレチン関連薬にはDPP-4の働きを阻害しインクレチンの分解を抑えるDPP-4阻害薬と高濃度のインクレチン製剤であるGLP-1受容体作動薬の2種類があります。インクレチン関連薬は血糖の上昇に伴って分泌されるので血糖が低い時は分泌されず低血糖が起りにくい薬です。DPP-4阻害薬は飲み薬で、一方GLP-1受容体作動薬は注射薬で、食欲や胃の動きを抑え

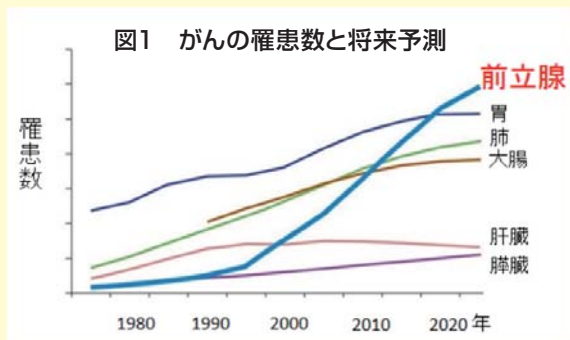
てやせる作用があります。DPP-4阻害薬は日本人では欧米人に比べて血糖が低下しやすいことが知られています。またインスリンや他の経口薬と一緒に使うこともでき併用により血糖がさらに低下します。副作用も少なく大変使いやすい薬なので多くの患者さんに処方されています。

次にSGLT2阻害薬について説明します。SGLT2とは腎臓において尿に排泄されたブドウ糖を体の中に再吸収する蛋白質です。SGLT2を阻害すると尿のブドウ糖が再吸収されなため尿糖が増えることにより血糖が低下し半年くらいまでは体重が約3kg減少します。さらに血圧や尿酸が低下し脂質改善作用もあります。ただし、尿糖がたくさん出て尿量が増えるため副作用として多尿、脱水、尿路感染症、性感感染症や皮疹などの発症も報告されています。このお薬は飲んだらすぐに尿がたくさん出ますので水分を500mlくらいとらなければなりません。今年の4月に発売されたばかりの薬ですので副作用に十分に注意し何かあればすぐに先生に相談しましょう。

前立腺がんについて

・はじめに

前立腺がんのほとんどは50歳以降に発生し、近年もっとも増加しているがんと言われています。厚生労働省の報告では、前立腺がんの罹患数は、2020年以降に男性のがんの第1位になると予想されています(図1)。

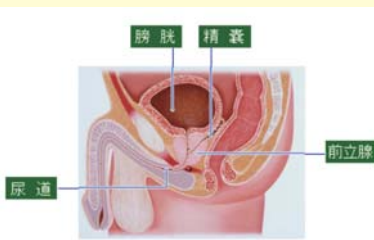


『がん・統計白書2012』篠原出版社より

・前立腺とは？

前立腺は男性だけにある臓器です。前立腺は膀胱の直下にある臓器です。前立腺は膀胱の直下に取り囲んでいます(図2)。前立腺の働きの一つは、前立腺液を分泌することです。前立腺液は、精液の一部となり、精子を保護し、精子に栄養を与えると同時に、その運動機能を助ける役割を果たしています。

図2 前立腺の位置



・前立腺がんの症状

早期の前立腺がんには、がん特有の症状はありません。がんが進行すると、尿がでにくい、排尿時に痛みを伴う、尿や精液に血が混じる、などの症状がみられることがあります。さらに進行すると、がんが骨盤や腰の骨を中心としたほかの部位にまで転移します。骨に転移した場合には、痛みがあらわれることがあります。

・前立腺がんの診断

○PSA検査

前立腺がんが存在すると血液中のPSA(前立腺特異抗原)が高値になります。当院では血液検査をして1時間ほどで結果がわかります。一般的にはPSA値が4.0ng/mlを超えると前立腺がんの可能性があると考えます。PSA値が4~10ng/mlをいわゆる「グレーゾーン」といい、約30%にがんが見つかります。この段階で発見された前立腺がんは早期がんであることが多いので、PSA検査は前立腺がんの早期発見には必須項目です。

○前立腺生検

PSA値などによってがんが疑われる場合、確定診断をするためには、前立腺の組織を採取する前立腺生検を行い、がん細胞の有無を顕微鏡検査で

診断します。当科では1泊2日の入院で検査を行っています。結果の判明までは1-2週間かかります。

・治療

○手術療法

手術で前立腺を摘出する治療です。当科では腹腔鏡(ふくくうきょう)で前立腺を摘出する手術を行っています。腹腔鏡手術では、おなかに小さな穴を5カ所開け、その穴からおなかの中を観察するカメラや、細長い器具を挿入して手術を行います。当科はこれまでこの方法で100例以上の手術を行ってきました。治療成績は良好で、大きな合併症もこれまで認めていません。手術治療の欠点としては、10日-2週間程度の入院が必要なこと、また術後一定期間、尿が漏れやすくなること、勃起機能が低下することなどです。

○放射線治療

放射線治療には、体の外から放射線をあてる方法と、前立腺の中に放射線物質を埋め込む治療があります。

体の中に放射線物質を埋め込む治療は、放射線をつまんだ小さなカプセルを前立腺の中に数十個埋め込む方法です(図3)。多くの人で勃起機能を維持できることや治療後の尿漏れの危険性が少ないことが長所です。短所としては、3泊4日ですが入院して埋め込み手術が必要であることや、しばらくの間おしっこが出にくくなったり、

図3 挿入する線源



おしっこをする時に痛みを感じたりすることなどがあります。また、がんの性質がおとなしく早期の人のみを対象となります。当科では、富山県で唯一、この埋め込み型の放射線治療を行っております。これまで治療された方で、再発した方や、大きな副作用が発生した例はありません。

○ホルモン療法

手術を受けられない場合や、転移した前立腺がんには、注射や飲み薬によるホルモン治療が行われます。

・おわりに

前立腺は早期で発見できれば完治する可能性が高いがんです。早期発見のためにはPSA検査を受けることが重要です。もしがんと診断された場合にどのような治療を行うかは、前立腺がんの進行の程度や患者さんの年齢・状態によっても異なるため、主治医とよく相談して決定していただきたいと思います。

がん患者サロン



がん患者さんの語らいの場

がん相談支援センター・ 肝疾患相談センター



がんや肝疾患の相談

看護外来



認定看護師らによる専門外来

南棟がオープンしました！

8月11日にオープンした南棟。
皆さんもう行かれましたか？
1階2階を少しだけ、
ご紹介します。

2階

EV

会議室

1階

EV

外来食堂



Be's style Dining

(外来食堂)



厳選された食材で、安全安心 おいしい食事を！

営業時間 平日: 10:30~19:00 (ラストオーダー18:00)

化学療法室



落ち着いた雰囲気の中に14のベッドがあります。



がん患者
サロン
がん相談
肝相談
看護
外来
トイレ

化学療法室

おあしす文庫



入院中でない方も
借りられますよ。

営業時間 平日10:00~12:30 13:30~16:00



おあしす
文庫

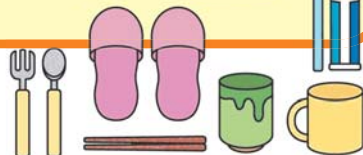
トイレ
自販機
コーナー

ホスピタル ヴァローレ (売店)



病室への配達も承ります。

営業時間 8:00~20:00(元旦のみ休業)



3階4階は、事務部門等になります。

理容室

売店

喫茶

CAFE CORE (喫茶)



焼きたてパンを店内でどうぞ。お持ち帰りもOK!

営業時間 平日:7:30~20:00 土日祝:9:00~18:00

患者さんのための オアシスコンサート

当院では、病気や治療によるストレスを抱えながら入院生活を過ごしている皆様に、一時でもリラックスした時間を過ごしていただけるよう「患者さんのためのオアシスコンサート」を開催しています。

毎年1～2回正面玄関ホールを利用して、クラシックだけではなく、合唱、民謡、邦楽、ギターなどの様々な種類の音楽を楽しんでいただいています。今年9月19日に開催された第42回オアシスコンサートでは、「合唱団となみ」の皆さんによる素敵な歌声をお届けすることができました。

これからも、皆さんの心に響く音楽会となるよう努力していきます。患者さんだけではなく、地域の皆様のご来場もお待ちしています。



院長伝言板

食中毒！ 加熱調理後も危ないっ！

食中毒！ 秋になり涼しくなったからといって油断は禁物。恐ろしい「食中毒菌」がいるのです。加熱するから大丈夫？ いやいや、そうではありません。食品を加熱すれば普通の菌は死滅します。しかし、黄色ブドウ球菌が作り出した「毒素」は100℃30分の加熱でも分解されないのです。また、ウェルシュ菌のように通常の加熱では死なない菌もいます。一晩寝かせると美味しくなると言われているカレーですが、常温で寝かせておくとウェルシュ菌の大温床となります。このように加熱調理したからといって決して安心できません！ 食中毒にご用心を。

地域医療連携室だより

★移転のお知らせ★

10月1日、1階正面に『患者総合支援センター』を開設しました。
それに伴い、地域医療連携室業務もセンター内に移動しました。

ご相談・ご依頼等
ございましたら是非お気軽に
お立ち寄りください。



『患者さんの権利を守るために』

1. 当院では、病気を克服しようとしておられる患者さんの人権を尊重し、その経済的・社会的地位、年齢、性別、疾病の種類などにかかわらず平等で最良の医療を提供します。
2. 当院では、患者さんと一緒に病気を克服するために、患者さんが既に実施された診療の内容と、これから行われようとする検査、及び治療の目的、方法、内容、危険性、治療の見通し及び、これに代わる他の治療法について十分説明し、さらに患者さんの治療に対する希望もお聞きし、相互の理解を得た上で、医療を行います。
3. 当院では、患者さんの希望があれば原則として、患者さん本人にカルテを開示いたします。また、他の医療機関にかかり意見を求めるためや、他の医療機関に移られるときには全ての情報をお渡します。
4. 当院では、患者さんのプライバシーを守るために、患者さんの承諾なく当院の医療従事者以外の第三者に患者さんの情報を開示いたしません。
5. 患者さんの権利には義務と責任が伴います。

以上を守り診療することを約束いたします。

診療案内

外来診療受付時間

- 新患 午前8時15分から午前11時まで
 - 再診 午前8時00分から午前11時まで
- ※診療科・曜日によって異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日

土・日・休日および年末年始